

① 分科会分担分【当初予算議案】

予算決算委員会 総務分科会座長報告

令和8年3月19日 予算決算委員会後期全体会

○議案第52号のうち、総務分科会の分担分と、
議案第58号の審査の経過

○議案第52号

「令和8年度飯田市一般会計予算(案)」のうち当分科会の分担分

○2款 総務費 1項 総務管理費 5目 自治振興費の

地域自治活動支援事業(事務事業No.9)に関し、

【質疑】市民主体のまちづくり意識醸成のために、各種アプリ等を活用
するとあるが、アプリをどのように活用していくのか。

【答弁】市の公式LINE等の多様な媒体を用い、市民に地域の活動情
報などを提供していく。

○同じく、自治振興費の

20地区田舎へ還ろう戦略支援事業(事務事業No.11)に関し、

【質疑】令和7年度に3地区をモデル地区に田舎へ還ろう戦略に取組
み、令和8年度は、さらに3地区での取組みが予定されている。
新たに導入される集落支援員制度は、6人分の予算で考えて
いるのか。

【答弁】集落支援員は、令和7年度のモデル地区を中心に3地区分の
経費を計上している。

【質疑】どのような人材を集落支援委員へ委嘱しようと考えているの
か。

【答弁】それぞれの地区で田舎へ還ろう戦略に取組が進められており、

地区によって戦略の柱は異なっている。地域が重点を置く分野の知識や経験を有する地元のキーマン等への委嘱を検討している。

【質疑】集落支援員は具体的にどのような役割を担うのか。3地区を1人が担当するのか。それとも、各地区1人が担当することになるとすると、地域でまちづくり委員会の皆さんが人口分析を取組んでいる中で、集落支援員がこういった立場・役割で支援に入ることになるのか。

【答弁】集落支援員は3人で各地区1名を基本として考えている。戦略を具体的に進めるために、必要とする分野の知識や経験を生かしながら、まちづくり委員会や関係団体とをつなげる役割も担ってもらい、具体的な取組を進めてもらいたいと考えている。

【質疑】地域を把握しているキーマンのような方が中心となって、地域全体を把握しつつ進めていくことはイメージが湧くが、特定分野に長けた方が集落支援員として、こういった支援ができるかもう少し具体的に説明をお願いしたい。

【答弁】まちづくり委員会に加え、関係する団体も含め地域が一体となり、田舎に還ろう戦略を同じ方向に向かって進めていくために、戦略を具体化・実証化していく段階で集落支援員制度を活用していきたいと考えている。地域を知っている人の視点から一緒に戦略を動かしていくこと、専門性の視点から取組を具体化していくこと。地域の中、あるいはその周辺で適した方がいれば、まちづくり委員会の活動を戦略的に動かしていくための人的支援の一つとして取組んでいきたい。

○続いて、7目 共生・協働推進事業費の

多様性社会推進事業(事務事業No.15)に関し、

【質疑】男女の共同参画意識の醸成等を学ぶライフデザインセミナー

はどのような内容となっているか。また、高校生を対象としたライフデザインセミナーの対象校を拡大するとあるがどのように広げるのか。

【答弁】ライフデザインセミナーでは、男性の育児休業体験談を直接聴く機会を設けるなど、若い頃から男女共同参画への理解を深める内容となっている。これまで、市内の高校では飯田風越高校、飯田OIDE長姫高校、下伊那農業高校、飯田女子高校で開催されてきたが、令和8年度から、新たに飯田高校でも開催を予定している。

○続いて、9目 企画費の

大学とのネットワーク構築事業(事務事業No.19)に関し、

【質疑】遠山郷ESDカレッジ未来共創プロジェクトについて、令和7年度は国のモデル事業として実施されたが、令和8年度はどのように展開されるか。

【答弁】令和7年度は総務省からの委託事業として1,000万円の交付があったが、令和8年度は市の一般財源で継続した取組みを行っていく。具体的には、大学生への旅費補助や活動拠点として空き家を活用した拠点整備を進めていく。地元の皆さんと様々な活動を進める中で新たな課題を見出してきており、引き続き地域課題の解決に取り組んでいく。

○同じく、企画費の

IIDAブランド推進事業(事務事業No.26)に関し、

【質疑】地元再発見ガイドブックの委託先はどのようなところを想定しているか。

【答弁】ガイドブックは、市政90周年を記念して制作し、店頭での一般販売を考えているため、単なる印刷物としてではなく、企画編集から店舗への流通までを含めた出版物として制作する。業者選定はこれからだが、プロの視点を借りて制作していく。

【質疑】市制施行 90 周年を記念して制作される地元再発見ガイドブックは令和8年・9年と複数年にわたって支出が予定されているが、同じく 90 周年を記念して製作される映画の負担金についても複数年の支出となるのか。

【答弁】映画の撮影は令和8年度で終了するため、単年度 1,500 万円の支出のみで、複数年の支出の予定はない。

○続いて、23 目 移住定住推進費の

総合的な空き家対策事業(事務事業No.40)に関し、

【質疑】空き家の詳細調査件数の活動指標の計画数が、令和 7 年度の 150 件から令和8年度は 50 件に減っている理由は。

【答弁】令和 7 年度は特定空家や管理不全空家等の認定のため集中的に調査を行ったため例年より調査件数が多かったが、通常は 50 件程度の調査件数となっている。

○同じく、移住定住推進費の

総合的な空き家対策事業(事務事業No.40)

中山間地域振興事業(事務事業No.41)に関し、

【質疑】既存の空き家活用補助金について、令和7年度の 770 万円の予算から令和8年度は480万円に減額し、新規事業として中山間地域住まい確保事業補助金(補助金 2,000 万円)を運用する意図は。また、中山間地域住まい確保事業補助金の具体的な支援内容はどうなっているか。

【答弁】これまでの空き家バンクを通じた補助(上限 30 万円・50 万円)とは別に、「住まいの確保」として条件的に厳しい中山間地域に特化した支援を行う。移住・定住を条件に、空き家の改修に対して、一般の住宅改修には上限 500 万円(補助率 1/2)、

集合住宅、シェアハウス等の改修整備には上限 1,000 万円
(補助率 1/2)の補助を考えている。

○同じく、移住定住推進費の

移住定住推進事業(事務事業No.44)に関し、

【質疑】新たに令和8年度から二地域居住の推進に関する事業が計画され、二地域居住推進事業実施運営業務委託料 620 万円、二地域居推進事業補助金 500 万円の予算がもらわれている。あわせて、コーディネーターの設置も予定されているが、コーディネーターの役割と委託先の想定は。

【答弁】現在、天龍峡で二地域居住に関する動きがあり、二地域居住推進拠点の整備を進めていくために補助金による支援を行う。コーディネーターについては、二地域居住希望者と地域をつなぐ役割を担うことを想定しており、現段階では法人への委託を考えている。

○同じく、移住定住推進費の

移住定住推進事業(事務事業No.44)に関し、

【質疑】令和8年度から新規に始まる、都市間の交流促進に関する事業について、つながりのある品川区や渋谷区など都市圏住民の皆さんとの交流を拡大していくとあるが、渋谷区・品川区以外にも想定する地区はあるか。

【答弁】主な都市間交流の対象は、渋谷区と品川区となっているが、各地域が行っている交流や、庁内の様々な機関が行っている交流などとも連携しながら幅広く考えていきたい。

○続いて、4款 衛生費 1項 保健衛生費 5目 環境保全費の

地域エネルギー普及事業(事務事業No.132) に関し、

【質疑】水素を利活用する社会の実現に向けて市民が水素エネルギーを知るために、親しむためのイベントを開催するとあるが、親

しむイベントとは何か。

【答弁】これまで、丘の上でのイベントやりんご並木のエコハウスでの環境啓発活動等で、水素でロケットを飛ばす体験会を開催しているが、水素ビジョンを策定する中で、水素に対する市民の認識がまだ低いことを認識している。具体的な選定はこれからだが、水素を動力にした自転車やグリル等を体験する機会を通じて、水素を身近に感じてもらうことで市民意識の醸成を図っていきたい。

○続いて、2項 清掃費 1目 清掃総務費の

3R 推進事業(事務事業No.138) に関し、

【質疑】稲葉クリーンセンターから排出される焼却灰の全量を再資源化するとあるが、焼却灰の再資源化に多額の予算をかける理由は何か。

【答弁】最終処分場グリーンバレー千代の埋立容量を確保し、運用期間を延長するために、全量を建設資材として資源化している。

○議案第58号

「令和8年度飯田市墓地事業特別会計予算(案)」

特に申し上げることなし。